

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査（以下、全国調査）を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

- 1 調査期日 平成29年4月18日（火）
- 2 調査の対象学年 中学校3年生（悉皆調査方式）
- 3 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B、数学B]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容。 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容。 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査(意識調査)	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査。	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査。

4 調査結果及び考察について

全国調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。また、1、2年生は「佐賀県小・中学校学習状況調査」（以下、県調査）が実施されましたので、合わせて公表します。

(1) 全国調査の平均正答率

		国語A	国語B	数学A	数学B
3年	本校	71	65	59	42
	県	77	70	62	46
	全国	77.4	72.2	64.6	48.1

※学校平均と県平均は整数値で提供されています。

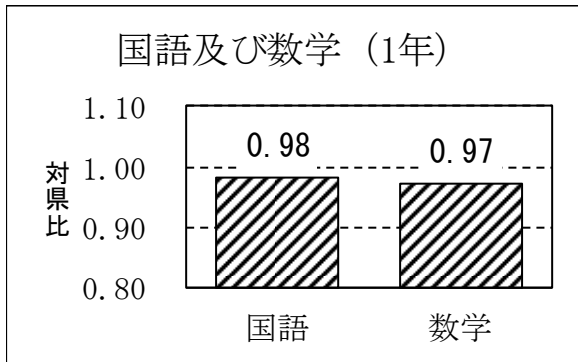
(2) 県調査の平均正答率

		国語	数学
2年	本校	52.7	57.5
	県	58.0	54.3
1年	本校	67.3	66.6
	県	68.5	68.5

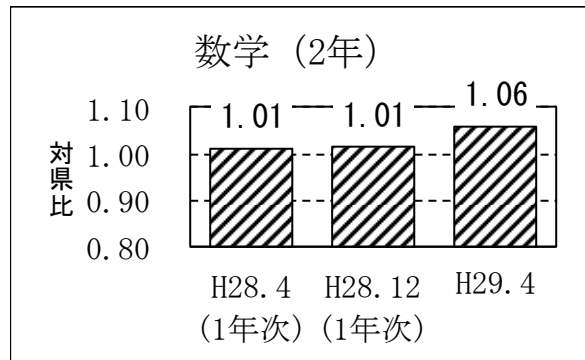
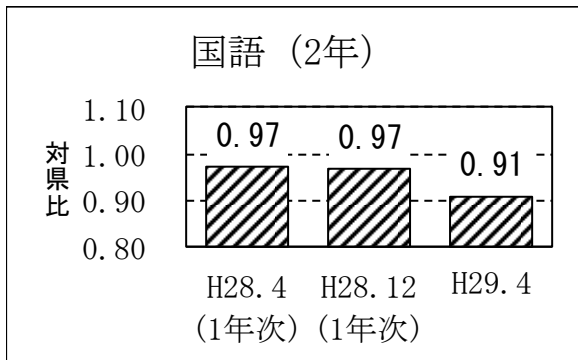
(3) 学習状況調査及び意識調査から読み取れる実態

ア 学習状況調査

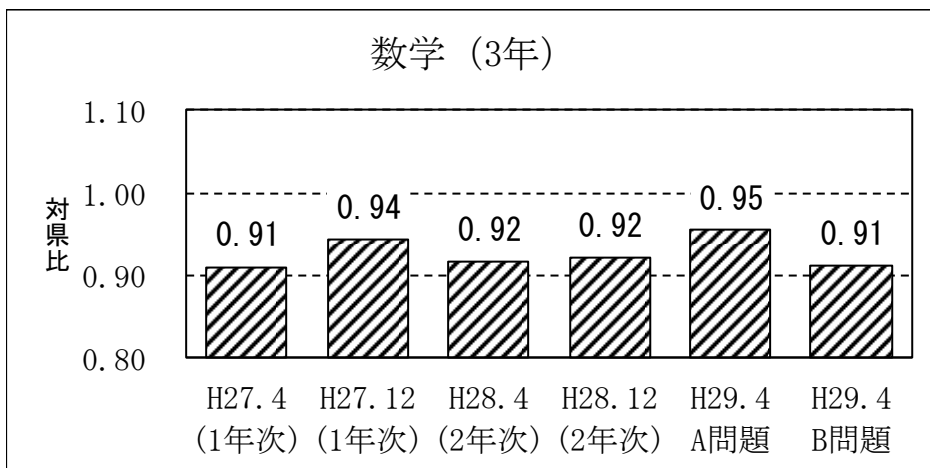
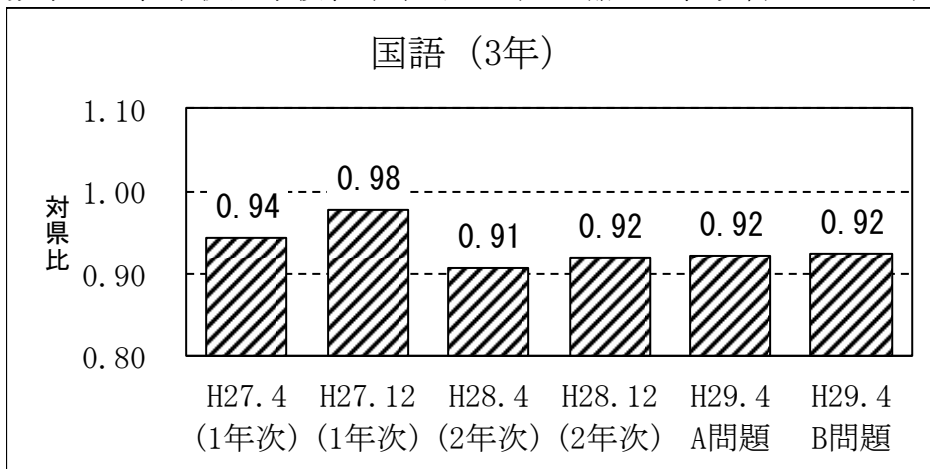
(ア) 1年生は、国語及び数学について、県平均を下回っています。



(イ) 2年生は、国語は県平均を下回り、1年次に比べてその差が大きくなりました。一方、数学は1年次から県平均を上回っていましたが、その差が一層大きくなり、向上しています。



(ウ) 3年生は、国語A及び国語B、数学A及び数学Bの4区分で県平均を下回りました。ただ、数学Aは、本校入学後、県平均との差が縮まり、改善しています。



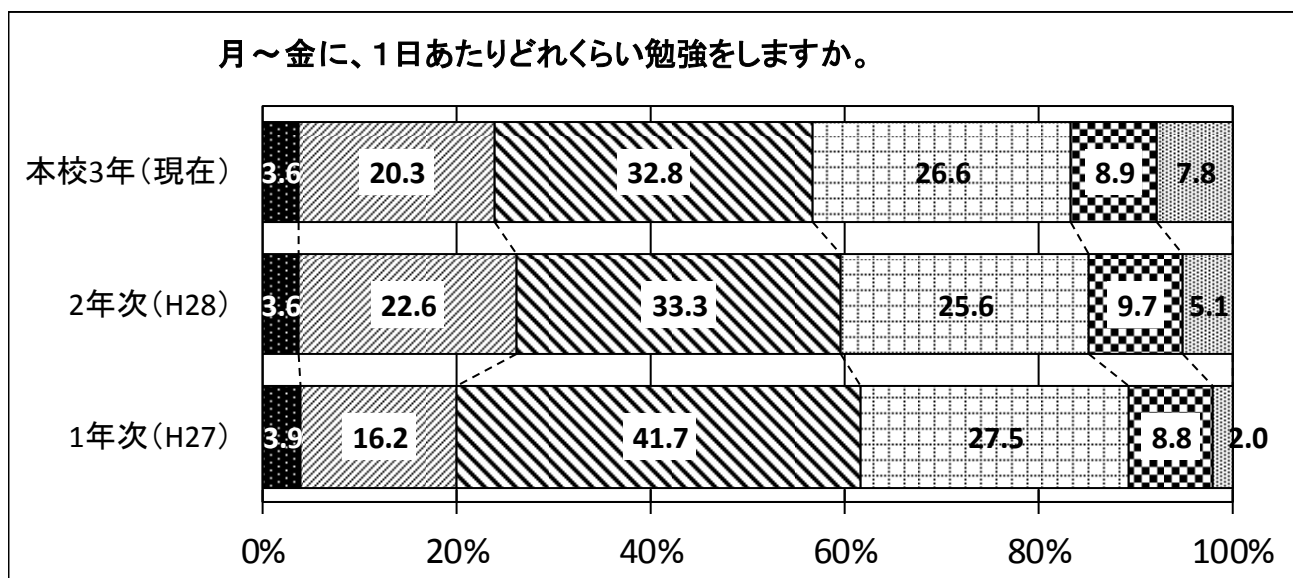
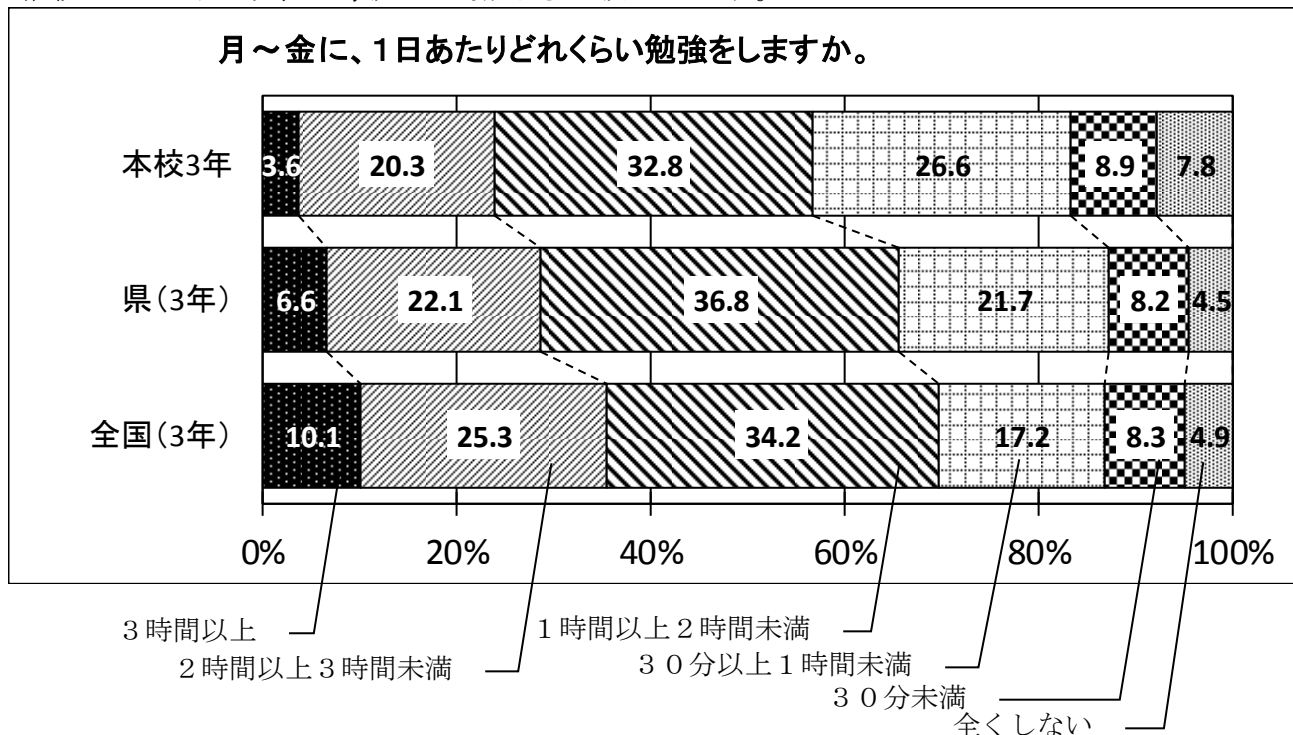
イ 意識調査

学力との相関がみられる傾向で、「家庭学習時間」、「ゲームをする時間」、「家での家族との会話」の項目について比較すると、次のような結果でした。

(ア) 「学校の授業時間以外の普段（月曜日から金曜日）の勉強時間」について

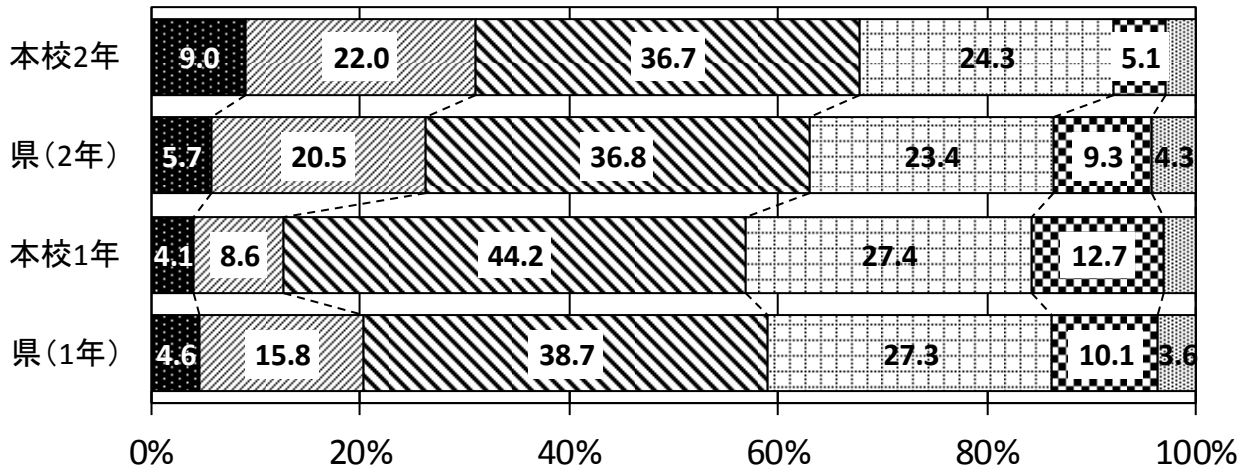
3年生は全国や県平均と比べ、勉強時間が明らかに少ないといえます。このことは、1年前、2年前の同調査でも同じ傾向で、十分ではなかった1年次、2年次のときから改善できていません。また、1年生も県平均と比べて勉強時間は少なく課題です。一方、2年生は県平均と比べて、十分な勉強時間が確保できていることがうかがえます。

確かな学力を定着させるためには、家庭学習は不可欠です。3年生は入試が迫り、これからは受験勉強も含めて取り組んでいくと思われますが、1、2年生も計画的に家庭学習が継続していくよう、ご家庭での協力をお願いします。



<現3年生の1年前、2年前との経年変化>

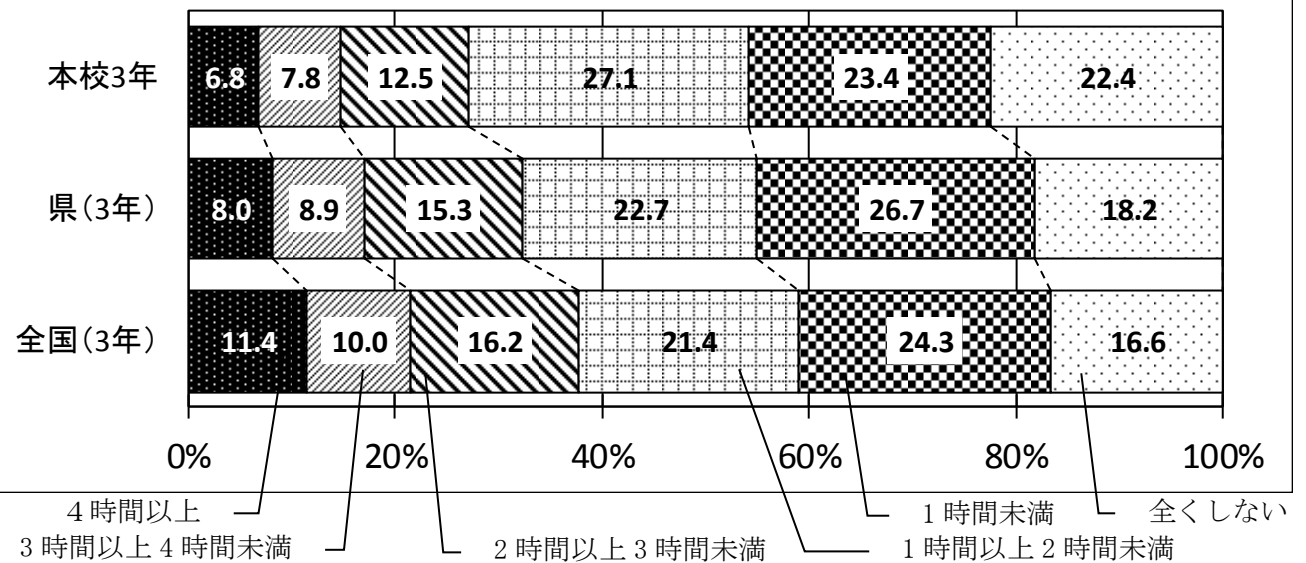
月～金に、1日あたりどれくらい勉強をしますか。



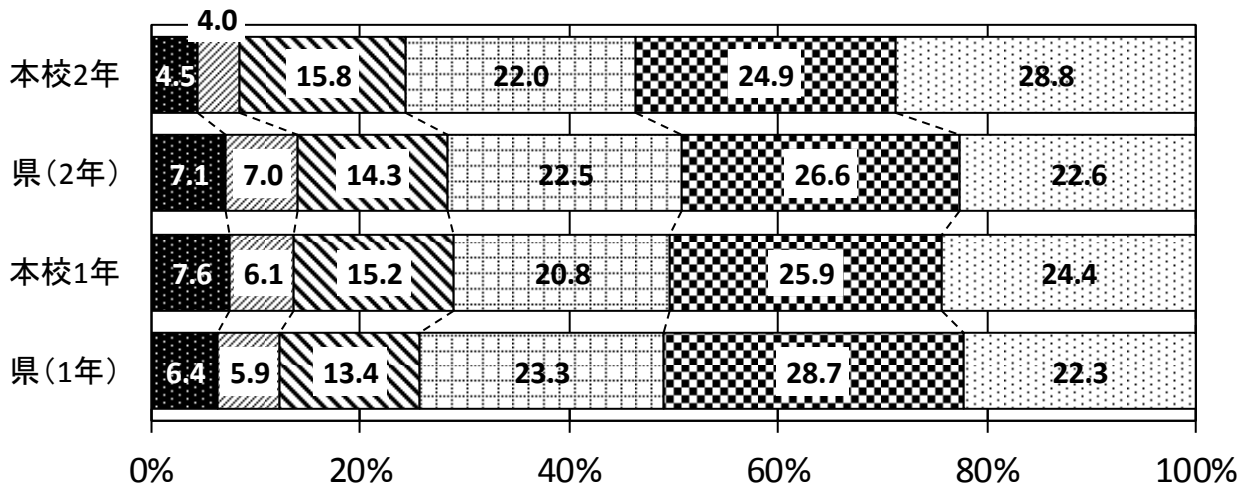
(イ) 「普段の1日にテレビゲームをする時間」について

2、3年生は、県平均と比べて、ゲームをする時間は少ない傾向がみられます。1年生は全体的にゲームをする時間が長く、「4時間以上」と回答している生徒の割合もやや多い傾向があります。

普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。



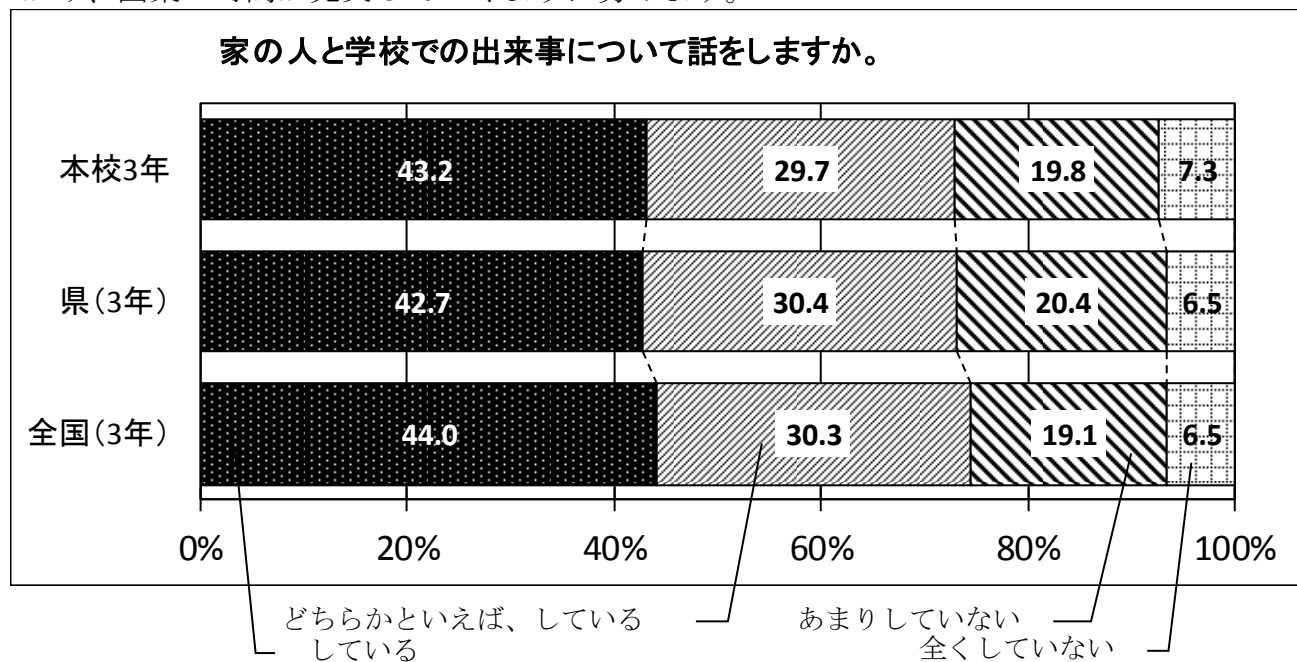
普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。



学校だより第8号（平成29年7月14日発行）で、東北大学の川島隆太教授が「テレビやスマホ、パソコンを見る時間が長ければ長いほど…。スマホは脳の力を削ぎ落す」と講演されたことを紹介していました。学校で学習したことが消滅してしまわないように、自分の生活を振り返ることができるように機会を見つけて指導していきます。

(ウ) 「家の人と学校での出来事についての会話」について

3年生の結果ですが、全国や県平均に比べて傾向は変わりません。7割以上の生徒が、「している」「どちらかといえば、している」と回答しており、良好な家庭の様子がみえます。ただ、「全くしない」と回答した生徒の割合は、全国平均を0.8ポイント上回っています。十数名の生徒になりますが、課題です。今後も引き続き、学校での様子などの情報発信を心がけ、団欒の時間が充実していくように努めます。



(4) 教科別の分析

ア 国語(3年)

A問題では、県平均を上回った設問数は、全32問のうち7問で、B問題では全9問のうち1問でした。国語A[9]六1、国語A[9]七2、国語B[1]三、国語B[3]三については、それぞれ次のような結果でした。

本校及び県、全国の平均正答率、()は無解答率

	国語A[9]六1	国語A[9]七2	国語B[1]三	国語B[3]三
本校	32.8 (1.0)	55.7 (3.6)	32.3 (11.5)	57.3 (10.4)
県	53.8 (1.1)	77.2 (1.5)	39.5 (13.2)	65.3 (7.5)
全国	49.6 (1.0)	78.5 (1.3)	41.4 (14.3)	68.8 (7.4)

A[9]六1は、「和」という字について、楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する問題でした。楷書と行書の違いの理解が十分ではありません。「楷書よりも速く書くことができる書体」が正解ですが、「楷書とは異なり、筆順を意識せずに書くことができる書体」という誤答を選んでいる生徒が多くを占め、31.3%でした。出題された「和」という文字が筆脈を意識して書かれていることを理解できていないのが要因だと思われます。書写の指導において、基本的なこととして、それぞれの特徴を踏まえた丁寧な指導を工夫します。

A[9]七2は、「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する問題でした。正答は「随

筆」でしたが、25.0%の生徒が「和歌」という誤答を選択しています。基本的な事項ですので、2 学年で学習する「徒然草」のときだけでなく、各学年に位置付けられている古典の学習の伊曾保物語や竹取物語、万葉・古今・新古今などで、振り返るようにします。

B¹三は、宮下奈都著の「スコーレNo. 4」（光文社）の出典で、「本の紹介カード」を作成するために、「本の一部」から比喻表現を抜き出し、感じたことや考えたことを書く記述式問題でした。正答率は32.3%で、県平均を7.2ポイント下回りました。無解答率も11.5%で高い結果となりました。正答となるには、

- ① <心に残った一文>に、【本の一部】から比喻を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書いている。
- ② <感想>に、①で取り上げた表現について、「誰（何）」の、「どのような」様子なのかを明確にして書いている。
- ③ <感想>に、①で取り上げた表現について、感じたことや考えたことを具体的に書いている。

の条件を満たして解答していることでした。本校の解答状況では①と③の条件は満たしていましたが②の条件を満たしていない解答が11.5%あり、特徴的でした。関連する問題として平成28年度にもB³三に出題され、本校の正答率は26.6%（県平均36.6%）で県平均を10ポイント下回り課題となっていました。その中で、無解答率は33.7%とかなり高くなっていましたので、今回、このことは改善しています。

文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際には、なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたのかなどについて、根拠を明確にして書くことが大切です。その際、比喻や反復などの表現の技法についての知識を生かすなどこれまでの学習を踏まえるように指導していきます。

B³三は、必要な情報を集めるための見通しをもつことをねらいとして、アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く記述式問題でした。正答率は57.3%で、県平均を8.0ポイント下回りました。22.9%の生徒が「対象」と「質問」は書いていましたが、最後の「理由」の欄に、作品に興味をもってもらえると考えた適切な理由を書くことができていませんでした。

目的に応じて集めた材料を分類するなどして整理することは、問題点を見いだしたり、自分の考えをまとめたりするために必要なだけでなく、文章の構成を考える上でも効果的です。書く目的や意図に応じて集めた材料を取捨選択したり、関連を考えて分類したり、時間的な推移や因果関係などに基づいて整理したりすることにより、書こうとする事柄のまとまりや順序が明確になります。その上で、段落の役割などを考えて文章を構成することが大切です。今後も、条件作文の練習や会話文の流れをつかみ、要旨をまとめる指導を続けていきます。

イ 数学（3年）

A問題では、県平均を上回った設問数は、全36問のうち12問で、B問題では全15問のうち2問でした。数学A²(1)、数学A⁴(1)、数学B²(3)、数学B³(2)については、それぞれ次のような結果でした。

本校及び県、全国の平均正答率、()は無解答率

	数学A ² (1)	数学A ⁴ (1)	数学B ² (3)	数学B ³ (2)
本校	40.6 (12.5)	47.9 (5.2)	8.3 (25.0)	8.9 (43.2)
県	52.4 (7.4)	61.8 (1.4)	16.8 (18.8)	18.3 (35.6)
全国	56.3 (8.1)	67.4 (1.0)	14.5 (23.4)	18.4 (33.4)

A²(1)は、5mの重さがa gの針金の1mの重さを、aを用いた式で表す基本問題ですが、正答率は40.6%で、県平均も11.8ポイント下回りました。誤答として、 $5/a$ と解答した生徒が12.5%、 $5a$ と解答した生徒が13.5%いました。針金の重さが長さに比例するという関

係を捉えることができず、誤答となっています。指導に当たっては、針金の重さ ag を具体的な数に置き換えて重さと長さの関係を捉える活動を位置付けます。

A[4](1)は、角の二等分線の作図の方法を示し、これが図形の対称性を基に行われていることを理解できているかを問う選択式問題でした。県平均を最も大きく下回りました。基本的な作図において、図形の対称性に着目して見直すことに課題があります。作図の方法に基づいて角の二等分線を作図した後、作図の方法を振り返る場面を設定します。直線 OP を対称軸とする線対称な図形が作図されたと捉えることができるようにすることが大切です。四角形 $AOBP$ において、健太さんの作図の方法①から $OA=OB$ 、②と③から $AP=BP$ になることを確認するなど、丁寧に指導していきます。

B[2](3)は、六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する記述式問題でした。正答率が最も低く、無解答率も 25.0% でした。事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができておらず、大きな課題です。事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるようにするために、事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、根拠を明確にすることが大切です。本設問のように、図の囲み方で必要なストローの本数が表されることを確認し、その囲み方と式 $6+5(n-1)$ を比べて、式の「6」が「最初の六角形をつくるのに必要なストローの本数」を意味することや、「 $5(n-1)$ 」が「囲まれているストローの総数」を意味することなどを読み取る場面を設定していきます。

B[3](2)は、与えられた表やグラフを用いて、貯水量が 1500 万 m^3 になるまでに 5 月 31 日から経過した日数を求める方法を説明する記述式問題で、無解答率が最も高い設問でした。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが必要です。誤答傾向を見ると、式を用いる考え方は書いてありますが、一次関数の式を求めて利用することや一次関数の式に $y=1500$ を代入して x の値を求めることの記述がないものがありました。「グラフをのぼして、1500 万 m^3 のときをみる」というのも誤答扱いになります。授業では、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「使い方」について説明する場面を的確に位置付けていきます。

ウ 国語 (2 年)

本校の平均正答率は 52.7% で、県平均を 5.3 ポイント下回り、県平均を上回った設問数は、全 31 問のうち 7 問でした。[1]二、[2]三は、次のような正答率でした。

本校及び県の平均正答率、() は無解答率

	[1]二	[2]三
本校	20.1 (16.1)	16.7 (9.8)
県	45.5 (15.1)	43.6 (9.4)

[1]二は、話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことに関する記述式問題でした。県平均を 25.4 ポイント下回りました。【話し合いの様子の一部】と【メモ】をもとに、「話題を変える理由を含めて書く」という条件でしたが、書かなければならない内容について理解はしているものの、十分に満たしていない誤答が目立ちました。同じ出題主旨の[2]三では、相手の発言を注意して聞き取り、発言を整理して自分の考えをまとめる記述式問題です。インタビューした内容から池上さんが発言したと思われる内容を、4 つの条件に合わせて書くことが求められました。県平均を大きく 26.9 ポイント下回りました。

これらのことから、話合いの相手や対象、目的を理解し、それに応じて話すことができるように指導していきます。授業では、互いの発言を検討したり、合意形成をしたりする場面を適切に位置付けます。

エ 数学 (2年)

本校の平均正答率は 57.5% で、県平均を 3.2 ポイント上回りました。設問別に見ても、県平均を上回った設問数は、全 30 問のうち 22 問でした。6三、6六は、次のような正答率でした。

本校及び県の平均正答率、() は無解答率

	6三	6六
本校	51.1 (2.3)	42.5 (13.8)
県	55.5 (2.4)	52.2 (8.7)

6三は、図形の回転移動について、移動前と移動後の対応する頂点の位置関係を理解しているかを問う選択式問題でした。図形の移動の基本問題ですが、十分定着していません。回転させる図形が長方形で、回転の中心が頂角の一つ、回転させる角度が 90° などが重なり、移動の前後の位置関係が正しくつかめていませんでした。回転移動の前後の図形について、長さや角度、対応する点の関係などを発見させ、実際に回転移動の作図を通してその根拠を説明できるような指導をしていきます。また、小6年次で既習の線対称、点対象と深い関連があり、系統的に捉えられるように適切に関連付けながら確認していきます。

6六は、底面の半径が 10cm、高さが 7cm の円柱の体積を求める基本問題でした。正答率は 42.5% で、県平均を 9.7 ポイント下回っています。誤答では、円周の長さ×高さを計算して体積としているのが多くありました。円柱の体積＝底面積×高さ は理解していても、円の底面積を $2\pi \times r$ としていたことが考えられます。公式を使うときは、単純な暗記ではなく、意味を分かって活用できるようにしなければなりません。円周の長さと円の面積の混同は、単位のことを考えても判断できます。 $2\pi r$ は長さの単位 cm であり、 πr^2 は面積の単位 cm^2 になっていることにも触れるようにします。

オ 国語 (1年)

本校の平均正答率は 67.3% で、県平均を 1.2 ポイント下回り、県平均を上回った設問数は、全 33 問のうち 16 問でした。1五、4三は、次のような正答率でした。

本校及び県の平均正答率、() は無解答率

	1五	4三
本校	27.9 (2.0)	27.9 (4.6)
県	50.5 (4.0)	42.1 (6.0)

1五は、話し手の意図に応じて、質問の構成を工夫することに関する記述式問題でした。県平均を大きく 22.6 ポイント下回りました。誤答傾向として、「直前の発言を受けて書く」という条件を満たして答えることができていないものが多くありました。答える条件の意図を正確に読み取り、なおかつ複数の条件を踏まえて記述することができるように、日頃の授業でも取り組みます。

4三は、文章の内容を踏まえ、様式に合わせてまとめる記述式問題でした。県平均を大きく下回りました。文章の内容をもとにして〔答え〕に合う【クイズ】の〔問題〕を一文で書くという設問で、誤答傾向としてはクイズ形式にはなっているものの十分ではない解答が多く見られました。正答は「人工の海岸林にはどんな役割がありますか」や「クロマツのような海岸林の役目は何ですか」など海岸林の働きを問うものになっていることが条件でした。1五と同様に、答える条件の意図を正確に読み取り、条件を踏まえて解答をするということを苦手としています。

カ 数学（1年）

本校の平均正答率は66.6%で、県平均を0.9ポイント下回りました。設問別に見ても、県平均を上回った設問数は、全27問のうち6問でした。2(1)、2(3)は、次のような正答率でした。

本校及び県の平均正答率、()は無解答率

	2(1)	2(3)
本校	44.9 (1.0)	45.5 (4.5)
県	53.1 (2.0)	59.2 (3.1)

2(1)は、除数が分数や小数の除法において、被除数と商の大きさとの関係について理解しているかを問う基本的な選択式問題でした。● $\div 1.5$ 、● $\div 4/5$ などで、●と商の大小関係が問われていますが、除法を乗法に直して表せば容易に考えることができます。

また、2(3)は、比と全体の量を基に、部分の量を考えることができるかの短答式問題で、「150枚の折り紙を分けるとき、折り紙の枚数の比が3:2になるように分けると、枚数は何枚になるか」という問いでした。小6年次の比の学習が十分ではなく課題です。割合や比の知識を使って問題解決をする場面はよく出てきますので、折に触れて扱うようにします。

キ その他（3年国語A及び数学Aの漢字や計算の基本問題）

全国調査のA問題で、漢字や計算の基本問題が出題され、平均正答率は次のような結果でした。

番号	国語A問題及び数学A問題	平均正答率		
		本校	県	全国
9一 1	組織の <u>キボ</u> を大きくする ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。	64.1	64.4	62.8
9一 2	雨で運動会が <u>エンキ</u> になる ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。	52.1	61.6	62.3
9一 3	店を <u>イトナむ</u> ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。	84.9	84.6	85.4
1(1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算しなさい。	88.5	86.1	87.1
1(3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算しなさい。	75.0	73.0	75.6
2(3)	$(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算しなさい。	78.1	76.7	78.5
3(1)	一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解きなさい。	78.6	81.5	82.7

国語Aの基本的な漢字については、3問中2問は県平均を下回りましたが、「店をイトナむ」は84.9%の正答率で0.3ポイント上回りました。また、数学Aの基本的な計算については、一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解く問題は県平均を0.9ポイント下回りましたが、他の3問は県平均を上回りました。

①(1)の分数×分数の基本的な計算も正答率は88.5%です。県平均や全国平均を上回っていますが、本設問は約分の必要もなく、もっと正答率を上げたいところです。引き続き、十分な家庭学習の時間をうながし、計算問題練習を取り入れます。また、漢字の定着も十分とはいえません。日々の学校生活の場面でも漢字を積極的に使っていきように働きかけていきます。漢字は、一字一字を正確に読み書きできるだけでなく、語や語句として理解し、文脈に即したり漢字の特徴を理解したりして、適切に使えるようになることが大切です。そのためには、既習の漢字を積極的に使用するよう指導するとともに、同音の漢字や形が似た漢字など、間違いやすい漢字に注意するよう指導し、実際に漢字を読んだり書いたりする機会を多くして、習熟を図るようにします。また、⑨の漢字で、学年配当は次のようになっており、すべて小学校で学習する漢字です。

	⑨ー1		⑨ー2		⑨ー3
	規	模	延	期	営
学年配当	小5	小6	小6	小3	小5